

## 学位論文の内容の要旨

専攻	分子情報制御医学	部門 (平成27年度以前入学者のみ記入)	病態制御医学
学籍番号	15D743	氏名	山名 浩喜
論文題目	Metformin Inhibits Proliferation and Tumor Growth of QGP-1 Pancreatic Neuroendocrine Tumor Cells by Inducing Cell Cycle Arrest and Apoptosis		

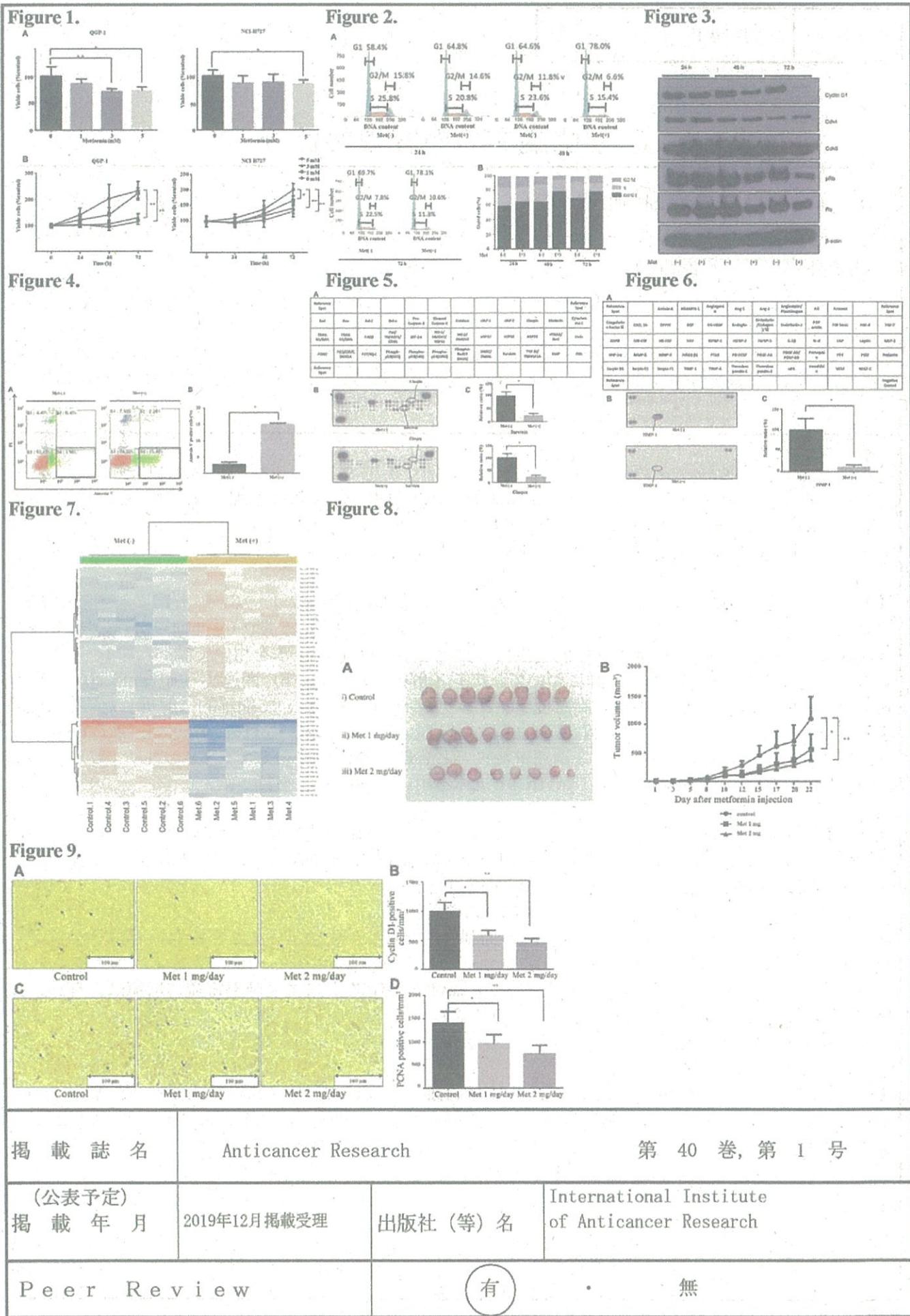
### (論文要旨)

【背景と目的】肺神経内分泌腫瘍(pNET)は比較的稀な疾患であり、治療法は未だ研究途上であると言える。近年、抗糖尿病薬であるmetforminが種々の悪性腫瘍に対して抗腫瘍効果を持つことが報告されているが、pNETに対するmetforminの効果については未だ研究がなされていない。今回我々は、ヒトpNET細胞株に対するmetforminの抗腫瘍効果を検討した。

【方法】1) metformin 0~5mMを使用し、2種類のpNET細胞株(QGP-1, NCI-H727)に対する増殖抑制効果をMTT assayで検討した。2) QGP-1の細胞周期変化(G1期, S期, G2/M期)についてflow cytometryで解析した。3) 細胞周期関連蛋白の発現をwestern blot法を用いて調べた。4) アポトーシス関連分子群、血管新生分子群について、アレイ解析を行った。5) 関連するmicroRNA(miRNA)を同定するため、2555遺伝子搭載の高感度マイクロアレイチップを用いて網羅的に解析した。6) 計30匹のヌードマウスにQGP-1(4x10<sup>6</sup>個/匹)を皮下に移植し、ランダムにMetformin0, 1, 2mg/bodyの3群に振り分け、5回/週にわたり計3週間継続投与し各群の腫瘍体積をモニタリングした。7) 核出した腫瘍組織に対して、PCNAおよびCyclin D1抗体を用いた免疫染色を行った。

【結果】2種類のpNET細胞株において、共にmetforminは細胞増殖抑制効果を示した(Figure 1A, B)。より抗腫瘍効果のあったQGP-1を用いた検討では、metformin添加後G1停止が誘導され(Figure 2A, B)、細胞周期関連蛋白ではCyclinD1の発現の低下を認めた(Figure 3)。アポトーシスに関する検討では、metforminによりアポトーシスは誘導されており(Figure 4A, B)、アレイ解析ではアポトーシス阻害因子であるsurvivin, claspinが抑制された(Figure 5A, B, C)。血管新生分子群ではTIMP-1の発現抑制を認めた(Figure 6A, B, C)。またmetformin添加によってmiRNAは異なるクラスターを形成していた(Figure 7)。In vivoにおいて、metformin投与により腫瘍組織の増殖は、有意に抑制されており(Figure 8A, B)、腫瘍組織に対しての免疫染色からも、組織においてもG1停止の誘導およびCyclin D1の抑制が起こっていることが裏付けられた(Figure 9A, B, C, D)。

【結語】metforminは種々の悪性腫瘍に対してと同様、pNETにおいても抗腫瘍効果を持つ薬剤であると考えられ、機序としては細胞周期関連蛋白の抑制によるG1停止の誘導、アポトーシスの誘導等によるものであると考える。本研究は、pNETの新たな治療法の一助になる可能性を示唆する。



(備考) 論文要旨は、日本語で1,500字以内にまとめてください。